

科目名	質的社会調査論B（旧IT&メディアB）	科目コード	1546	単位数	2
担当者名	佐藤 千歳	開講Semester	第2Semester	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	有 報道関係
ナンバリング	BLI212	DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

● 授業のねらい

商学科や観光産業学科の学修や研究に必要な社会調査の方法の基礎を身につけるために、インタビューやフィールドワークで情報を集め、集めたデータを分析して分かりやすく伝えるための考え方と方法を学びます。

● 到達目標

- 1) フィールドワークの手法による基礎的な質的調査計画を立案できる。
- 2) 質的調査で集めたデータの分析方法を理解し、実践できる。
- 3) フィールドワークによる質的調査の結果を「調査報告書」にまとめられる。
- 4) 聞き手の立場に立ったプレゼンテーションを行うことができる。

● 授業内容

- 1週目 質的調査とはなにか
- 2週目 フィールドワークの調査計画の立案方法
- 3週目 調査（取材）者が留意すべき調査倫理
- 4週目 フィールドワークの目的、基本的な方法
- 5週目 フィールドワークの調査計画の立案方法
- 6週目 フィールドワークの実践（1）
- 7週目 フィールドワークの記録「フィールドノート」の手法
- 8週目 フィールドワークの調査計画
- 9週目 フィールドワークの実践（2）各自の調査計画に基づいて実施する
- 10週目 データ分析の実践：コードを用いた分析方法の実践
- 11週目 フィールドワークの調査結果の検証：評価基準の作成と自己評価
- 12週目 フィールドワークの調査結果のピアレビュー：履修者相互による評価
- 13週目 フィールドワークの調査結果のピアレビュー：履修者相互による分析から各自調査の振り返り
- 14週目 フィールドワークの応用範囲：特に商学、経営学、観光産業学への応用事例
- 15週目 プレゼンテーションと調査学習の講評。
- 16週目 やむを得ず15週までの内容を実施できな かった場合のみ補講授業

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業でフィールドワークによる調査の実施と調査結果の分析に向けた課題を実施します。授業時間以外に、毎週少なくとも1時間以上の予習が必要です。また調査の実施と調査報告書の作成に、授業時間以外に2時間以上の作業が必要です。

学内アクセスポイントが整備された際には、大学構内でWifiを用いて配布資料に常時アクセスできます。授業終了後すぐに準備学修に取り組むよう心がけてください。

● 成績評価の方法・基準

調査計画書（10%）、調査記録（20%）、分析結果のレポート（30%）調査報告書（30%）、授業への貢献（10%）により評価します。

● 履修上の留意点

- 1) 全ての課題を期限内に提出した履修者のみ、成績評価の対象とします。
- 2) 教室での講義のほかに、あなた自身が調査を行い、結果を報告書にまとめる課題を実施します。家庭でも十分な学習時間を確保してください。
- 3) 病気やケガの療養や就職活動を理由に欠席する場合は、所定の欠席届と、その内容の根拠となる書類を提出してください。
- 4) 授業に関する連絡や課題の提出・返却はLMSを用いて行います。毎回の授業の前後に確認してください。
- 5) 授業の出席は、授業への参加と課題提出の両方を必要とします。例えば、授業には参加したが課題を提出しなかった場合やその逆は出席になりません。

学内アクセスポイントが整備された際には、授業中の資料共有やグループワークにWifiを使用します。

● 課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションや毎回の授業の課題は、履修者間のピアレビューと教員による個別の改善指導を返却時に行います。調査報告書は、教員による個別の改善指導を返却時に行います。

学内アクセスポイントが整備された際には、授業中のフィードバックはWifiを用いて行います。

● テキスト

佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版 書を持って街へ出よう』（新曜社）2006年。
本テキストは質的社會調査論A（旧IT&メディアA）と同じテキストを使用します。

● 参考書

上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房（1012円）

● 更新日付

2024/02/22 11:14